

台市立四郎丸小学校および南三陸町等の被災地を訪問し、学生交流を行った。

(4) 気仙沼市教育委員会 気仙沼ESD/RCE推進委員会 宮城教育大学主催「気仙沼ESD/RCE 円卓会議」(協力)

日 時：2012年10月30日(火)

場 所：気仙沼市立面瀬小学校

経 費：気仙沼市教育委員会

10月30日(火) 気仙沼市立面瀬小学校において、気仙沼市が、これまで取り組んできた「持続可能な発展のための教育(ESD)」の価値を再評価し、地域及び各校の教育復興につなげることを目的として、「気仙沼ESD/RCE 円卓会議」が開催された。午前は『ESD 授業研究会』と授業研究会(事後検討会)が行われ、市瀬智紀教授 吉田剛准教授 気仙沼市教育委員会白幡勝美教育長、及川幸彦副参事が指導助言にあたった。午後は「東日本大震災からの教育復興への取組と今後の展望」と題する元文部科学副大臣・参議院議員 鈴木寛氏の講演や文部科学省 上月正博審議官の「新教育振興基本計画の策定と東日本大震災からの復興教育」と題する講演があった。この会議には、気仙沼市内の教職員のほか、地域の行政関係者、産業団体、NGO/NPO、ボランティア団体など約120名の参加があった。

(5) 宮城教育大学附属国際理解教育研究センター主催「宮城教育大学舞踊発表会—地域の伝統と教育—」(主催)

実施日：2012年9月15日(土)

場 所：若林区文化センター・ホール

経 費：地域遺産/特別経費

若林区文化センター・ホールにて、「宮城教育大学舞踊発表会～地域の伝統文化と教育～」を開催した。この発表会は、地域の伝統文化(民俗芸能・舞踊)を教育に取り入れている学校が集まって、取り組みについての実践内容と成果の発表を行うもので今回は、次の6つのグループが取り組みの発表を行った。沖縄県恩納村立安富祖小中学校「琉球舞踊」、相馬市立磯部小学校「こきりこ」、石巻市立東浜小学校「獅子風流」、仙台市立鶴巻小学校「相馬かんちょろりん節」、聖和学園短期大学学生「秋田音頭」、尚絅学院大学学生および卒業生「西馬音内盆踊り」、宮城教育大学の卒業生「さんさ踊り」。

この事業は、文部科学省・特別経費「東北の地域遺産を活用した地域と世界を結ぶ持続発展教育の推進」プロジェクトによるもの。沖縄県恩納村立安富祖小中学校は、この発表会の翌日16日、東日本大震災からの復興をねがって、石巻市を訪問し、参加者の感動を呼んだ。15日の「宮城教育大学舞踊発表会～地域の伝統文化と教育～」の参加者は総計400名。

(6) 宮城教育大学主催「日本/ユネスコ パートナースhip事業 2012年 第1回ユネスコスクール東北大会/第2回ユネスコスクール宮城県大会」(主催)

実施日：2012年11月30日

場 所：仙台市福祉プラザ

経 費：日本/ユネスコ・パートナーシップ経費

加盟申請から4年以上経過した宮城県において、ユネスコスクールの理念を継承していくため、また宮城県以外の地域でのユネスコスクールへの理解を深めるため、「2012年 第1回ユネスコスクール東北大会/第2回ユネスコスクール宮城県大会」が仙台市福祉プラザにおいて開催された。午前の部では、文部科学省 国際統括官補佐井村 隆氏による「ユネスコスクールの現状について」気仙沼市教育委員会 副参事及川 幸彦 氏によるESDと防災教育について講演や仙台市立南吉成中学校の生徒さんの実践発表があり、中学生の震災復興への取組みは参加者の感動を生んだ。午後の部では「地球的課題・国際連携」「持続可能な循環型社会」「地域遺産・文化多様性」の3分科会に分かれ、それぞれの分科会では、自発的に申し込まれたすぐれた実践の発表があった、最後に、

「ユネスコスクールの教育の特徴と魅力」として、これまで積極的にユネスコスクール活動に取り組んできた気仙沼市教育委員会と仙台市立南吉成中学校から、新規に加盟する福

島県立安達高等学校に向けてメッセージやアドバイスがあった。青森県から九州まで全国約 100 名の教員の参加があった。

(7) 日本語学習支援ネットワーク会議実行委員会主催「日本語学習支援ネットワーク会議 2012 in 仙台 ポスト 3.11 の沿岸被災地の日本語教室の新たな動きとこれからの協働
実施日：2012 年 12 月 8 日

場 所：東京エレクトロンホール会議室

経 費：岩手大学

宮城県内の気仙沼、南三陸、石巻、岩沼を互理中心に、沿海被災地域の日本語教室では、3.11 以後再出発を始める日本語教室が多い。それらの教室ではこれまでの地元支援者に加えて外部の支援者が参加したり、日本語学習以外に就労スキルの習得を目的とするなど、新たな動きがみられる。この会議では、日本語教室の運営者と学習者を招いて、地域の日本人と、外国籍配偶者、その子弟である外国にルーツを持つ子供それぞれの立場からの考え方や思いを伝えあい、今後の協働について考える目的で開催された。沿岸被災地である、岩沼、石巻（2か所）、南三陸、気仙沼、登米などから日本語教室の支援者および日本語教室で学ぶ外国籍の方が参加し、シンポジウムと分科会が行われた。当日の参加者は 100 名。

(8) 第 4 回ユネスコスクール全国大会(参加)

実施日：2011 年 1 月 26 日

場 所：奈良教育大学

経 費：日本／ユネスコ・パートナーシップ経費

奈良教育大学において開催された第 4 回ユネスコスクール全国大会（主催：文部科学省 日本ユネスコ国内委員会）に参加した。大会テーマは「ESD の実践上の課題解決に向けて」、主な内容は、テーマ別交流研修会、研究授業、シンポジウム、展示、情報交換会。特別授業として平野啓子(日本ユネスコ国内委員会広報大使)による「声に出して感じる自然の美しさ」や、シンポジウム「グローバル社会に通用する人材を ESD でどのように育てるか」が開催されたが、シンポジウムでは本学が推進し、国際理解教育研究センターでも実践を支援している「RICE プロジェクト」について、社会科教育講座准教授の川崎惣一氏から紹介があった。

(9) 気仙沼市教育委員会 気仙沼 ESD/RCE 推進委員会主催 「平成 24 年度 第 2 回気仙沼 ESD/ユネスコスクール研修会」(協力)

実施日：2012 年 1 月 29 日 (火) 13：15～16：45

場 所：気仙沼市役所 ワンテン庁舎 2F 大ホール

経 費：気仙沼市教育委員会

東日本大震災後の気仙沼市内のユネスコスクールを核とする ESD の再生と質的向上をめざし、ESD に関する国の研究や他地域のユネスコスクールの取組を踏まえながら、各校の実践を共有するとともに、専門的見地からの助言をもとに評価・検討を加え、次年度に向けて取組の工夫改善を図る目的で開催された。「ESD で育む能力・態度とその実践事例」と題して、国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部 総括研究官 五島政一氏による講演があった。その後「震災からの復興に向けた ESD～震災後の各校の ESD の工夫改善」として「防災・エネルギー」「国際理解・地域文化遺産」「食育・福祉・地域」の 3 つの分科会にわかれて今年度の実践の成果発表が行われた。東北大学大学院環境研究科、浅沼宏准教授、環境教育実践研究センター 溝田浩二准教授、本センター市瀬智紀教授、吉田剛准教授、小金澤孝昭センター長が参加し、指導助言にあたった。気仙沼市立小中学校・幼稚園教員、県立高等学校教員など 60 名が参加した。

活動の内容を補完する以下の資料があれば添付願います。※公表しません

- 紙媒体の参考資料（新聞、出版物など） CD-ROM 写真
 その他（ ）